

PHYSOR2026 に参加して

名古屋大学山本章夫研究室

修士課程 2 年 汲田翔吾、黒木裕介、嶋倉海倫、芳賀周

修士課程 1 年 大橋諒之介、藤城光祐

名古屋大学に所属している汲田・黒木・嶋倉・芳賀・大橋・藤城と申します。

私たちはイタリア・トリノで開催された“International Conference on Physics of Reactors (PHYSOR2026)”に参加して参りました。本記事におきましては、海外出張の貴重な経験や記憶に残る出来事を、学生同士による座談会の形でお伝えしてまいります。

(芳賀)

PHYSOR2026 の概要を教えてください。

(嶋倉)

PHYSOR2026 はイタリアのトリノの Lingotto Congress Center で 2026 年 4 月 19~23 日にかけて開催されました。本研究室からは山本先生、遠藤先生に加え、修士 1 年は大橋さん、永田さん、藤城さん、修士 2 年はカレンさん、汲田さん、黒木さん、芳賀さんと自分の計 10 名で参加しました。山本先生は“TECHNICAL PROGRAMME COMMITTEE”として、遠藤先生は“TECHNICAL PROGRAMME COMMITTEE CHAIRS”として参加されていました。日本の学生では、他にも北大の学生が参加しており、その他にも多くの日本人の方が参加されて、計 29 名が参加されていたとのことです。

19 日はワークショップとレセプション、20~22 日にかけて口頭発表が振り分けられ、さらに 21 日にはポスターセッション、22 日にはバンケットが開催されました。23 日はクロージングセレモニーが開催され、遠藤先生が best reviewer として表彰されていました。



メイン会場の様子

(嶋倉)

レセプションに参加した感想を教えてください。

(大橋)

非常に人数が多く、活発で楽しい雰囲気でした！立食形式でしたが、人数が多すぎて食べ物をとるにも一苦労…(笑)

ぱっと見、修士の学生は少なく不安でしたが、韓国や中国の学生をはじめ、多くの方が優しくフレンドリーに話してくださり、良い時間を過ごせました。レセプションの時点で自分の研究に興味を持っていただけた方も数人おり、口頭発表も聞きに来てくださったりと嬉しかったです！

汲田さんはどうでしたか？

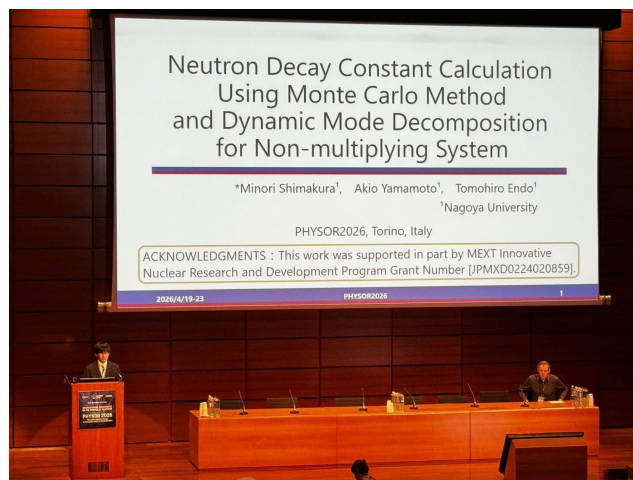
(汲田)

地元のスーパーマーケットで開催ということでイタリアらしい料理がたくさん並んでいてテンションが上がりました！学会が始まったことを実感して最初は緊張しました。多くの参加者に話しかけているうちに緊張もほぐれ、会話を楽しめました。アメリカやヨーロッパだけでなく中国や韓国、サウジアラビアなど様々な国から参加者がいて驚きました。

嶋倉さん、発表の方はどうでしたか？

(嶋倉)

発表を振り返ると、発表時間自体はほぼ 15 分ぴったりででした。しかし、会場の広さや初の国際学会ということも相まって、緊張で内容が飛んでしまい言葉が詰まってしまうことが多々ありました。また、聴衆の方を向いて話してみようと試みましたが、スライド画面が見えなくなることから、ここでもまた言葉が詰まったりと課題の残る発表となりました。



発表の様子(嶋倉)

(汲田)

質疑応答も問題なかったですか？

(嶋倉)

質疑自体は要点だけでも聞き取り、なるべく返答するように心がけていましたが、質問が長く意図をくみ取ることが困難でした。また、質問数が少なく、うまく伝わっていないかな、と発表直後は感じていましたが、自分のセッションはそもそもモンテカルロ法を使用していること以外は発表テーマが多岐にわたっており、他セッションのようにある分野に特化した研究を行っている方が少なかったのかなと思いました。

黒木さんの発表はどうでしたか？

(黒木)

発表に関しては、質疑応答も含め、ANS Winter Meeting 2025 に参加した際と比べて成長を実感することができました。一方で、発表後半では緊張のために話す内容が一部飛んでしまい、聴衆の顔を見ながら落ち着いて話すことができませんでした。また、発表時間は 15 分程度であったにもかかわらず質問が 1 件のみであったことから、発表内容を十分に分かりやすく伝えられていなかった可能性も感じました。単に内容を説明するだけでなく、聴衆に語りかけるような発表を意識し、より伝わりやすいプレゼンテーションを目指したいです。

(嶋倉)

黒木さんも質疑応答はどうでしたか？

(黒木)

何度か聞き返してしまったものの、最終的には質問内容を正しく聞き取ることができ、適切に回答できたため安心しました。また、海外学会での質疑応答では、英語力だけでなく、その場で質問の意図を整理しながら冷静に対応する力も重要であることを改めて実感しました。今後は一度で正確に聞き取れるよう、リスニング力もさらに向上させていきたいです。芳賀さんは発表の聴講や Coffee break などの場で、慣れない英語に対して意識したことはありますか？

(芳賀)

はい、国際会議に向けて毎日 YouTube で英語に触れてリスニング力の向上に努めることと、事前にフルペーパーに目を通しておくことを意識しました。発表内容をあらかじめ把握しておけば、英語が聞き取りにくくても内容の理解を補えると考えたためです。

しかし実際には、英語力だけでなく学術的な面でも理解が追いつかず、自分の実力不足を痛感する結果となりました。この経験から、自分にはまだまだ大きな伸びしろがあると感じる

と同時に、今後の英語学習や研究においてこれまで以上の努力を重ねる必要があると感じました。藤城さん、学会で印象に残ったことはありますか？

(藤城)

フレンドリーな方が多かった印象です。特に、自分の発表後の Coffee break の時間では話しかけてくださる方が多く、研究内容についての議論や雑談などをしました。Coffee break ではジュースやお菓子などが提供されており、立食形式だったので和気あいあいと海外の研究者の方と会話できました。

汲田さん、バンケットに参加した感想を教えてください。

(汲田)

バンケットは学会会場から少し歩いた先にある自動車博物館で開催されました。入場すると、まずは博物館の見学ができました。初期の自動車から最新のスーパーカーまで展示されており男心をくすぐられました。その後は立食形式のパーティが用意されていました。学会中に知り合った参加者と談笑しながら料理を楽しみました。バンケットの途中で、参加者の地元の学生がみんなで行こうと声をかけてくれました。非常に多くの人と交流を深めることができた最高のパーティでした。

黒木さん、日本や他の海外の原子力学会と比べて、雰囲気など違いはありましたか？





バンケット (上) と自動車博物館 (下)

(黒木)

まず、日本の学会とは異なり、午前と午後に 1 回ずつ「Coffee break」が設けられていたのが特徴的でした。Coffee break では、その名の通りコーヒーやジュースを飲みながら、軽食を片手に参加者同士で雑談を交えつつ休憩します。昨年 11 月にアメリカで参加した ANS Winter Meeting 2025 でも Coffee break はありましたが、PHYSOR2026 では、エスプレッソやピザパンなど、開催地であるイタリアらしさを感じられる軽食が多く提供されていました。

また、発表の場では、日本の学会よりも質疑応答が活発で、参加者が積極的に議論を交わしている様子が印象的でした。

芳賀さんはどのように感じましたか？

(芳賀)

日本の学会では、どうしても知っている研究室や顔見知り同士で固まってしまうことが多いと感じていましたが、海外の会議では、Coffee break などの短い時間でも、初対面の人にとんどん話しかけるようなオープンな雰囲気があったと感じました。単に発表を聞きに来るだけでなく、世界中の研究者と繋がりを作りに来ているというスタンスに違いを感じました。大橋さんは学会以外で印象に残っていることはありますか？

(大橋)

イタリアは料理がどれも本当においしくて、特にジェラートはたくさん食べていました(笑)。トリノの街並みも歴史を感じる建物が多く、歩いているだけで気分が上がりました。学会の合間には街を散策したり、地元のカフェでエスプレッソを楽しんだり、短い時間ながらイタリアの雰囲気を満喫できました。日本では味わえない経験ばかりで、とても良い思い出になりました！

藤城さんはどうでしたか？

(藤城)

イタリア人は陽気な人が多かった印象でした。ホテル近くのスーパーでレジの列に並んでいるとき、イタリア人のおじちゃんに話しかけられました。イタリア語が分からないと、何とか簡単な英語とジェスチャーで伝え、おじちゃんはそうなのか、と納得した顔をしました。が、その後イタリア語でマシンガントークをされたときは、笑って相槌を打つしかなかったです(笑)。その他にも気さくに話しかけてくれる陽気な人が多かったです。



トリノの街並み

総括：

今回の PHYSOR2026 への参加を通じて、研究発表や質疑応答における英語力の課題を実感する一方で、国境を越えて活発に議論し合う研究者たちの姿から大きな刺激を受けました。この経験を糧に、研究者としてさらなる成長を目指していきたいです。最後に、海外への挑戦には不安も伴いますが、それ以上の貴重な経験や気づきが得られる場でもあります。本報告書が、今後海外の学会への参加を志す学生の皆さんにとって、事前準備や現地での心構えなどの参考となり、一步を踏み出す上で少しでも役立つ情報となれば幸いです。